

# 美しいまちなみ優秀賞

## 鳥取市 夢街道・鹿野往来城下町地区

所在地 鳥取県鳥取市  
地区面積 約40.5ha  
応募者 特定非営利活動法人 いんしゅう鹿野まちづくり協議会  
鳥取市

### <地区の概要>

当地区は、江戸初期頃の町割りをそのまま引き継ぎ、狭く折れ曲がった道や切妻家屋、格子戸など城下町としての面影を色濃く残している。

400年の伝統を誇る「『鹿野祭り』の似合うまち」をテーマに、市は「街なみ環境整備事業」を導入し、行政による「景観ガイドライン」や住民主体による「街づくり協定書」に基づき、行政と住民の協働で景観まちづくりに取り組まれてきた。こうした中、伝統文化の振興による地域活性化を目的とする活動組織(いんしゅう鹿野まちづくり協議会)が地元有志により発足し、同組織は、整備された街なみを活かして「いんしゅう鹿野盆踊り」、「虚無僧行脚・レトロ市」などの城下町情緒溢れるイベントの開催をはじめ、空家を借受け改修し、活動拠点や食事処の運営等を行っている。

事業開始から13年が経過して、京格子の町屋や白壁に腰板張りの屋敷など往時の風情がよみがえり、来訪者が増加している。



▲ 地区全景。当地区は、戦国時代末期の武将、亀井茲矩の居城(鹿野城)の麓に広がる城下町として栄えた。道路、水路などの町割りは当時のままである。



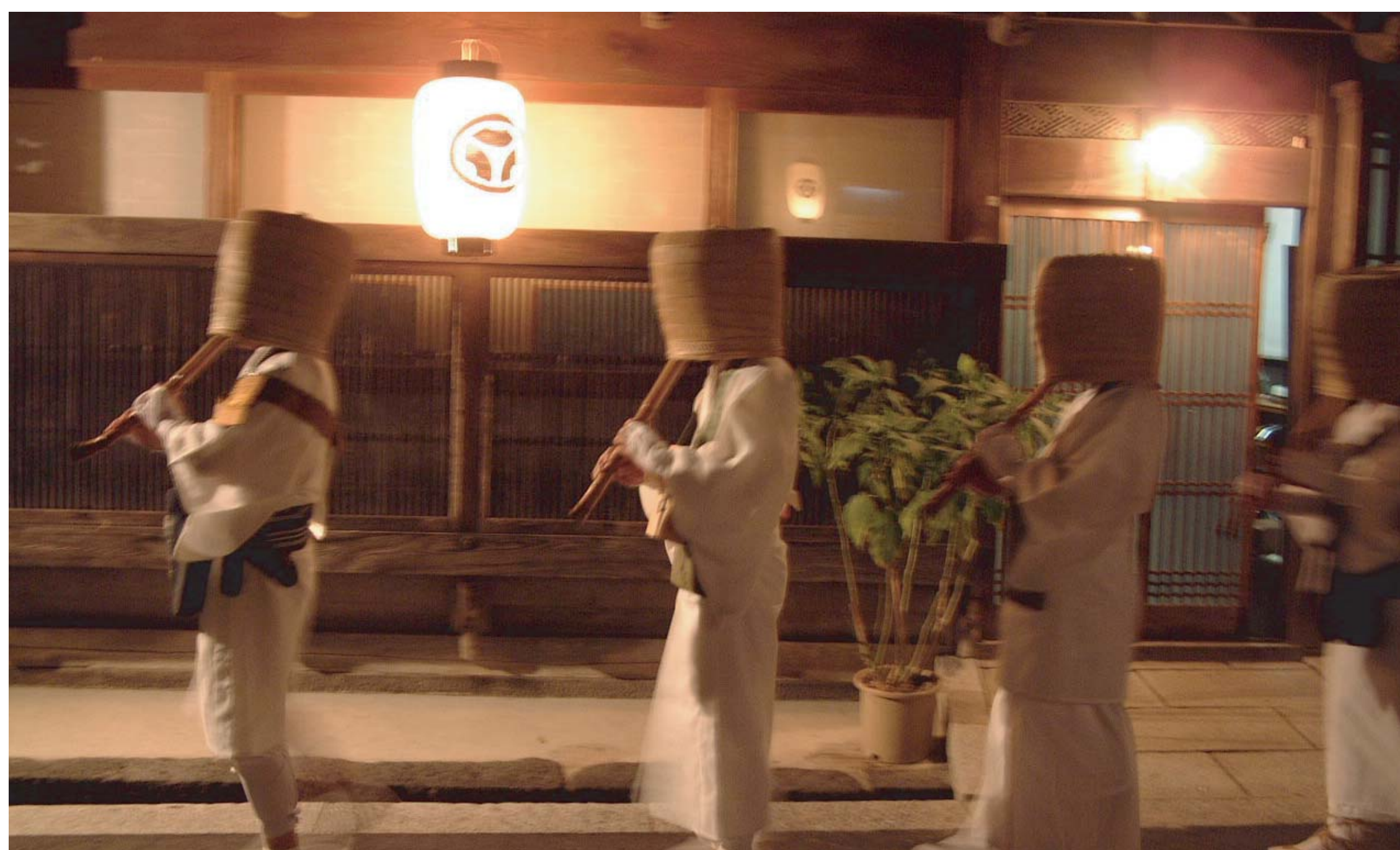
▲ 明治45年に建築された「田中邸」。千本格子の向こう、客間の先に、風情ある中庭を垣間見ることができる。



▲ 下町通りの「稲垣邸」。築後200年以上と言われている。昭和50年代、作家の司馬遼太郎氏がこの建物などをスケッチし、「全体にえも言われぬ気品をもった集落」と表現している。



▲ 鹿野ゆめ本陣。藍染め暖簾、布草履などの手作り工芸品や、特産のそば粉を使った手作りの「そばアイス」が人気。中庭に牛小屋をリフォームした藍染工房があり、藍染め体験ができる。



▲ 虚無僧行脚。西暦奇数年の9月下旬に開催。全国から集まった約50名の尺八愛好者が虚無僧姿で鹿野往来を行脚。昼夜行われ、日が落ちると通りの民家は提灯を灯して情景演出に協力。



▲ 鳥取県無形民俗文化財の城山神社祭礼「鹿野祭り」。大祭は、西暦偶数年の4月上旬に開催。住民の積極的なまちづくりへの参画により、「鹿野祭りの似合う街なみ」が蘇りつつある。